

保護者のことば

伊那西高等学校

令和元年度卒業生の保護者の方々から寄せていただきました。（原文のまま）

〇様 （S・Oさんの母）

娘が伊那西高校を選択したのは、あるスポーツを続けるためでした。そして、学習面でも力をつけるために進学コースに入学しました。しかし、実際には、伊那西の良さを知らないまま入学を迎えた私の頭の中には、「なぜ伊那西を選ぶのか」の言葉がありました。正直、当時の私には不安という言葉しかなかったのです。本当に伊那西で良かったのか、そんなことばかり考えていました。

入学式当日、会場で隣に座った保護者の方に尋ねると、「ここは進路について本当に熱心に指導してくださるから、姉妹でお世話になっているご家庭が多いですよ」そんな言葉が返ってきました。その言葉も半信半疑で聞いていました。入学式が終わり、教室へ戻り担任の先生のお話を聞くと、先生の子どもたちに対する熱い想いが伝わってきて、不安が少し和ぎました。

娘の高校生活はスポーツ中心に回っていました。諏訪から2時間かけて電車で通うため、クラブ活動を終えて帰宅するのは夜遅く、自主学习などしている時間はほとんどありません。大会等で公欠することも多く、学習に遅れが出ることもありました。1年の頃は自身の夢も明確ではなく、進路についても思い悩んでいる時期でした。ですが、そこにはいつも子どもの力を信じて勇気をくださる伊那西の先生方の存在がありました。

娘が3年になり、「公立大学へのAO入試に挑戦したい」という決意を担任の先生に伝えると、それは決して可能性の大きいものではないのにも関わらず、先生は力強く背中を押してくれました。並行して不合格の時の進路の選択も真剣に考えてくださり、安心して第一志望の大学に挑戦することができました。AO入試の選抜方法は、実技試験、面接、小論文でした。その一つ一つに様々な先生が携わって熱心に指導してくださりました。また、周りの生徒たちも実技試験や面接のための練習に協力してくれたのです。そんな状況の中で戦っている娘を見ていると、「挑戦するだけで十分に得るものが多い」と思ってしまうほど恵まれた受験環境でした。公立大学への挑戦は娘にとっては高いハードルだったと思います。そのハードルを乗り越えることができたのは紛れもなく伊那西の先生方のおかげです。熱心な先生方の指導の元で、娘は自信と勇気をもって試験の臨むことができたのです。

この3年間で娘の人間性は大きく成長しました。それは自分に携わってくださった多くの先生や友人との関わりがあったからです。入学式の時に保護者の方から聞いた言葉は真実でした。子どもの夢に向かって全力でサポートしてくださるのが伊那西高校です。伊那西を選んで本当に良かったです。

（都留文科大学教養学部教育学科へ進学）

H様 (M・Hさんの父)

伊那西高校の進学コース入学は、少人数で一人一人に目が行き届くということで決めたように思います。

長男の公立高校の時に比べて定期的にクラスのお便りがあり、担任や親同士の懇親会や、担任や先生方との交流会がたくさんあって、親が楽しく学校と関わることができました。クラブ活動は合唱クラブでNHKコンクールや2年生で信州総文祭の参加などがあり、頑張っていてやっていました。また、クラス対抗合唱コンクールなどでピアノの伴奏を任されて一生懸命にやっていました。

一番感謝していることは、進学に対して、担任を含め沢山の先生方がフォローしてくださったことで、無事希望した大学に合格することができたことです。

娘は英語を使った仕事に就きたい思いが強く、外国語大学への入学を希望していました。1年から外国語の大学のオープンキャンパスに参加するなかで、3年で名古屋外国語大学進学への思いを強めてきました。

そこで、9月の特別選抜試験(英検2級取得者対象)受験に向けて6月に英検2級に挑戦しました。過去2回不合格だった英検2級ですが、英語の先生に試験対策の練習の相当付き合っただけのおかげで最後の挑戦で合格することができました。8月のオープンキャンパスの際に、9月の特別選抜試験は難易度の高い試験であることがわかり、受験するかどうするか悩みましたが、受験することに決めました。そして、そこから自己推薦文の作成や英作文、面接での日本語、英語の練習など担任、英語の先生などに手伝っていただき大変な思いをして何とか受験にこぎつけましたが、結果は不合格でした。しかし、ここであきらめることなく、11月の一般公募受験に向けて赤本を購入、過去問を頑張っていてやっていました。9月に一度受験したこともあって、落ち着いて受験することができたようで、無事、現代英語学部合格することができました。振り返ってみると、色々と悩み苦しみながらも先生方に助けていただき、模試の結果では合格が難しいと判定された一般入試での合格にたどり着きました。また、自己推薦文等に取り組んだことも、自分や将来のことをしっかり考えるきっかけになり、無駄にならなかったと強く思いました。

(名古屋外国語大学現代国際学部現代英語学科へ進学)

A様 (M・Aさんの母)

娘さんの進路に悩んでいる親御さんに一言。この伊那西高校の三年間で娘さんはきっと素晴らしく成長できると思います。ですから、是非とも入学をお勧めします。

冒頭にいきなりで失礼いたしました。

我が娘は『人前に出て堂々と話すこと。思っていることをうまく伝えること』がすごく苦手でした。気持ちを相手に伝えることに抵抗を感じながら日々生活を送っていたのだと思います。そんな娘が、自分に自信をつけ、克服しました。180度変わったといっても過言ではありません。きっかけは、この度合格した大学のAO入試でした。この入試は一次試験が課題に沿っての小論文、一次合格者は二次試験でパワーポイントを使ってのプレゼンテーションでした。課題に対しての現地調査やデータ収集などは自力でやるしかありません。アンケート調査や設備の見学等、時間のある限り取り組みました。先生方のお力添えも頂いて資料が完成し、娘は本番まで毎日気を緩めることなくプレゼンテーションの練習に励み、100%に近いくらい暗記して本番を迎えました。その甲斐あってか、当日の娘の堂々たる姿、やり遂げた姿に脱帽でした。こんなにも成長したのかと。

(日本大学経済学部産業経営学科へ進学)

O様 (K・Oさん、O・Oさんの父)

私の娘は他の高校を希望していましたが、伊那西高校卒業の叔母の話や、中学校の先生の話聞き、ギリギリで伊那西高校を受験することにしました。

娘は進学コースでしたが、入学してからは人が変わったかのように家で机に向かうようになりました。話を聞いてみると「学校が楽しい」「テストの点を下げたくない」という言葉が返ってきました。とても自分の娘から発せられた言葉とは信じられず耳を疑いましたが、同時に進学して早々に「成長したな」と感じたのも良い思い出です。

先生からも、娘や友達の学校での様子を、様々な行事の際に詳しく聞くことができました。学校では、クラスの友達同士で勉強を教えあったりしていたそうです。実際、人に勉強を教えるときには自分もしっかりと理解していないと教えられないそうです。先生方が授業でしっかり理解出来るような教え方をしてくださっていたからこそ、友達同士で勉強を教えあえていたのでしょう。

大学進学の際にも、学校中の先生方が娘たちの為に尽力してくださいました。クラスの生徒一人一人の希望に添うような進路を生徒に示していただきました。そのかいあって、娘は自分の第一希望の大学に早々に合格することができました。

学校生活ではクラブ活動にも力を入れてクラブ長もやらせていただいていたと思います。とても楽しかったようで、クラブ活動一辺倒にならないか心配していましたが、こちらでも先生方のサポートのお陰でやり抜くことができました。

伊那西高校では生徒一人一人の自主性、やる気を伸ばして成長させてくれます。もしも娘さんが進学に関して迷っているようでしたら、「伊那西高校」も一つの選択肢として相談してみてもいいのではないでしょうか。

(長野大学社会福祉学部社会福祉学科、
日本福祉大学教育心理学部子ども発達学科へ進学)

N様 (M・Nさんの母)

学校説明会で心に残っていることは、隅々まで綺麗にされた校舎内外、少人数クラス編成制の素晴らしさ、教頭先生の「公立と違いお金を多く頂いている分、しっかりと教え、手を掛けてあげられる」と目を輝かせておっしゃっていたことです。

入学当初の懇談会で、担任から「勉強しろと言わなくていいです」と言われ、半信半疑でしたが、自分から学習し、親の予想していた以上に成績を伸ばしていただきました。中学では一番の苦手科目が、高校では楽しくなり、大学の進路を決めるきっかけとなりました。

3年間でいろいろなボランティア活動にも参加し、交流を広め、生徒会では全校生徒の前で話をし、自分から積極的に活動するようになられたのも、優しく時に厳しく指導して下さる先生方に見守られ、良き学友にも恵まれからだ心からありがたく思います。

保護者同士の関わりもとても楽しい3年間でした。伊那西高等学校独特でしょうか、お父さん方も積極的に参加し、夫婦でバレーボールを楽しんでいる姿が多く見られました。これを見ても学校と保護者の関わりが良いものだとよくわかります。

卒業式後、「とても楽しい3年間だった。落ち着いたら先生方に会いに行きたい…」と娘から出た言葉に、とても素晴らしい高校生活だったことがわかりました。先生方に感謝し、この学校に入学させていただき、本当に良かったと実感しています。

(京都女子大学文学部英文学科へ進学)

I様 (E・Iさんの父)

娘は「一生懸命勉強して国家試験の資格を絶対取得する」と親から見ても、今までには考えられないくらい勉強に対する意欲、将来の夢を持って医療系の大学に進学しました。ここまで強い意志を持つようになったのは、伊那西高校の3年間の学校生活が基礎になったと思います。

振り返ると伊那西高校を志望した理由は、女子高であること、2歳上の姉もお世話になっていたこともあり、心強く思ったのでしょうか。親としては、「他の選択肢はいくらでもあったのに何故？」という思いはありましたが、伊那西高校の教育方針・教育システム・バックアップ、そして近年の評判を耳にして、伊那西高校への入学を後押ししました。

運動系のクラブに入り、勉強との両立は大丈夫かと心配しましたが、担任の先生が3年間を通して向上心を煽り、自信を持たせ、上手くクラスをまとめてくれました。進学先に迷っていた娘も、先生の助言のおかげで進路先を決めることができました。進路先が決まった後は、担任の先生の他、各教科の先生方が親身になって指導をしてくださいました。

これから新たな目標に向けた大学生活、その後の社会人生活では様々な壁に突き当たるとは思いますが、伊那西高校でのクラブ活動で養った団結力・忍耐力、クラスの仲間との楽しい思い出を糧に、乗り越えて行ってくれると信じています。3年間の思いが詰まった制服も、しばらくは残して置きたいとそのままにしてあります。

(長野保健医療大学看護学部看護学科へ進学)

A様 (Y・Aさんの母)

私たちが伊那西高校に訪れたのは、娘が高校2年生の10月、転入をするためでした。転入の手続きはとてもスムーズに進み、校長先生、教頭先生の面接、編入試験の後、入学許可をいただくことができました。担任の先生は、初対面の場でとても不安で緊張していた娘に対して「友達と仲良くやろうね。クラブ活動は書道の経験があるなら書道クラブなんてどう？」と静かに微笑みながら優しく声をかけてくださいました。最初は卒業できるだろうかと不安な状況にありましたが、担任の先生やクラスメイトの優しさにより、みるみるうちにクラスに馴染んでいきました。転入生とは思えないほど、伊那西高校の生活に溶け込むことができ、娘に対して、私は驚きを隠せませんでした。

しかし、転入したころの勉強のできは、クラスの足を引っ張るほどの悪さで、こんなにも他の生徒と差があるのかと呆然としていました。そこで、娘は毎日帰宅すると机に向かい、がむしゃらに勉強をしました。当たり前のことを当たり前にする大切さ、それを担任の先生が教えてくれたのです。クラブ活動でも顧問の先生が娘の得意分野を任せてくださり、自信をつけることができました。

3年生になると、今まで進路のことを考えていなかったのも、焦っていた娘に、「本来なら1, 2年生で考えることを今一度にやっているのも仕方ないことです。焦らなくても大丈夫。」と担任の先生は優しく見守ってくださいました。伊那西高校の先生方は進路が決まらず二転三転する娘に、本当に親身になって相談に乗ってくださいました。彼女のやりたいことを見つけ、将来の夢に導いてくださった先生方には感謝しかありません。

二つの高校へ通った娘だからこそ、伊那西高校の良さがわかります。娘の目線に立ち、ともに喜び、笑い、ともに悲しみ、涙を流してくれた先生方に心から感謝申し上げます。

新たな夢に向かい、希望する大学へ進学できたのも先生方のおかげです。伊那西高校を卒業できたことを本当に嬉しく思います。

(日本女子体育大学体育学部スポーツ健康学科健康スポーツ学専攻へ進学)

K様 (S・Kさんの父)

中学3年生の時、娘から「神奈川県を離れて長野県伊那市の高校に行きたい」と相談されました。とても不安はありましたが、自分で決めた事であれば頑張ってみなさいと送り出しました。在学中は勉学とクラブ活動の両立に努力して、とても充実した3年間を過ごすことができましたと思います。

新体操クラブでは顧問の先生方のご指導のおかげで、協調性やコミュニケーション力、礼儀を学ぶことができました。全校高校選抜大会2位・インターハイ全国大会3位と好成績を収めることもでき、達成感や仲間という宝物を得ることができました。顧問の先生からは勉学にも力を入れるようにとご指導頂き、練習がない日は勉強に励みました。

それまで自分から勉強をしていなかった娘から、「これから勉強するから電話切るね」と言われた時には本当に驚きました。三者面談では、担任の先生から授業中や日々の生活態度、嬉しかったことなどをお聞きして、毎回娘の成長に驚き目頭が熱くなりました。進路相談では、先生方に面接練習や小論文の添削などご指導をいただき、その様子を娘が電話で嬉しそうに話しているのを聞いて、本当に良い学校に入学して良かったと実感しました。そして、そのお力添えのおかげで、無事に大学に進学することもできました。

この3年間の経験は、娘を大きく成長させて頂いた貴重な時間でした。

(武庫川女子大学健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科へ進学)

K様 (N・Kさんの母)

中学校時代は、体調面などで様々なことがあり、楽しい3年間だったとはいえませんでした。

高校入学後、クラブは文芸クラブに入部しました。顧問の先生の「クラス以外の大切な居場所づくり」の思いの通り、居心地の良い場所になったようでした。

また、生徒会の先輩に憧れ、生徒会役員として活動させていただくことになりました。これまでそんな経験がなく心配していたところ、やはり大変な事も多く、苦労の連続でした。そんな時は、生徒会や担任の先生、教科担任など、とにかく多くの先生方が相談にのってくださり、仲間にも助けられ、何とか役割を果たせたようでした。

先生方との距離が近く、学習面、進路相談においても、多くの先生方にきめ細やかにご指導いただきました。先生方はささいな事でも、時間を作ってよく話を聞いてくださいました。そのおかげで、「娘には無理なのではないか」と思っていた多くのことを乗り越えて成長できたことに対して、先生方には大変感謝しております。

(山梨学院短期大学保育科へ進学)

K様 (S・Kさんの母)

私には娘が2人います。長女は中学3年の時に不登校になりましたが、伊那西高校在学中の先輩からの勧めもあり、入学前から部活動の練習に参加させていただいていました。伊那西高校は担任の先生に加え、クラブ顧問の先生、教科担当の先生方など多くの先生方が娘と関わって下さいました。長女は卒業して7年になりましたが、妹が伊那西高校に入学したこともあり、時々顔を出しては先生方に近況報告をしていました。卒業した今でも暖かく見守っていただいて、故郷のようなところだと思います。また、学校行事に加え、PTA活動の中に親も先生方と楽しめる企画があり、楽しい思い出を作ることができました。そんなところも伊那西高校の魅力です。

次女が中学3年になり、進路の選択をするときに、私の中では県立高校に加えて、本人が希望すれば伊那西高校も選択肢の一つでした。伊那西高校は私立なので金銭面を心配する声をよく聞きます。私は母子家庭ですが、娘二人を卒業させることができました。心配もあるかとは思いますが、得るものがたくさんあり、それには変えられないと私は感じています。

入学時には進路がまだ決まっていなかった娘は、普通コースを選択して入学しました。在学中に看護系への進学を決断したわけですが、受験に向けて多くの先生方にサポートしていただき、11月には指定校推薦で合格することができました。

3月卒業式は新型コロナウイルスの影響で卒業生と先生方のみで行われました。お世話になった先生方にお礼も言えないままお別れになってしまい、親が卒業できていないような気持ちになることが時々あります。コロナが終息した折には、娘の近況報告とご挨拶に、次女の運転する車で、長女と孫と一緒に伺いたいと思います。

4月には伊那西高校の卒業生が私の職場に入職してきました。自分の子供を育てるような気持ちと、お世話になった伊那西高校に少しでも恩返しができる機会と思い、一人前のスタッフに育てられるように微力ながら精いっぱい力になりたいと思います。

(飯田女子短期大学看護学科へ進学)

U様 (K・Uさんの母)

娘は、中学3年で進路に迷った時、高校に行かず働いてもいいかなと話しましたが。親としては、社会に出て働く前に高校へ進学し、今しかできない経験や学問を修得して欲しいという思いでございました。そんな娘も、中学3年生のときに高校の体験入学へ参加させて頂きました。その体験入学を終えた後、あんなに悩んでいた娘が「伊那西高校へ決めようかな！」と声を弾ませ帰ってきました。実際に自分の目で見て感じた伊那西高校の印象が強く心に残り、娘に決断させたのでしょう。明るい挨拶、きれいに清掃された校舎、先輩や先生方の親切な対応、そういった点が娘の第一印象だったと思います。

実際の高校生活では、娘の性格からして楽しい事ばかりではなく、つらい事や悩んだことも多かったと思います。しかし、先生方や周りの友達に支えられながら、自分に与えられた役割を最後までやり遂げることができたと思います。このように乗り越えられた自信が、さらに短大進学へと気持ちを動かしたのではないかと思います。現在は短大へ進学し、将来へ向けて頑張っています。

伊那西高校で得た自信は、娘のこの先の人生においてとても大きな財産となることでしょう。大きく成長できた3年間でした。最後まで生徒一人一人に向き合い、寄り添っていただいたことに感謝しております。

(飯田女子短期大学家政学科家政専攻へ進学)

F様 (K・Fさんの母)

娘は伊那西で3年間お世話になり、本当に良かったと実感し、感謝しています。

娘は人と関わることや、自分が経験したことのない初めてのことがとても苦手で、小学校3年生からクラスへ入ることができなくなりました。中学では、クラスに入ることも行事に参加することもできず、支援クラスで半日過ごす毎日でした。そんな娘も当たり前のように高校進学を望み、入試に向けて努力し始めました。娘の状況で入れて、対応してくれる高校はどこか探す中で、個別で見学し、色々な話を聞くなかで伊那西に決めました。

一般試験で無事入学した娘でしたが、入学式の翌日には学校へ行くことができず、夕方には早速担任の先生と話をしました。慣れるまでは、娘のできる範囲で学校へ行くことや、中学での生活に戻すことから始めようと、翌日からは相談室へ半日だけ登校するという柔軟な対応をしていただき、少しずつ慣れて行動範囲が広がりました。1年の後半に差し掛かるころには、このままでは進級が危ういと伝えられましたが、絶対に進級するという目標ができた娘に、担任の先生だけでなく学校全体で娘に寄り添い、支えてくださいました。事前に見学したり、詳しく説明を受けたりと、丁寧に対応していただくなかで、今までにない頑張りを見せた娘は、無事進級することができました。

この1年間で力をつけてきた娘は授業だけではなく、行事にも同じように参加でき、皆と楽しむことができるようになっていました。

卒業後の進路についても、本人の希望を聞きながら、一番良い方向を一緒に考え指導してもらいながら、短大に進学することができました。コロナの影響で変則的ではありますが、学生生活と一人暮らしを頑張っています。目標をもって将来を見据えることができるようになったのも、伊那西の校風と先生方のお陰です。

(飯田女子短期大学家政学科家政専攻へ進学)

M様 (A・Mさんの母)

私は伊那西高校の卒業生です。一日体験入学の案内を見て、当時進路に迷っていた娘に伊那西も見えてきたらどうかと勧めてみました。実際、一日体験入学の後は、伊那西を気に入った様子で帰ってきたので勧めてよかったなと思いました。

当初、私は普通コースに行くのだと思っていましたが、実際に聞いてみると進学コースの希望でした。私は、進学コースに入っても、娘がついていけるのか少し不安でした。しかし、少人数クラスで先生が分かるまで丁寧に教えてくださり、苦手な教科も友だちや先生方のサポートもあり、コツコツ取り組んで徐々に克服していきました。

正直、伊那西に入学してからの成績の伸び具合には驚きました。第一志望の進路先に合格できたのは、本人の努力ももちろんありますが、先生方が熱心に指導してくださったおかげだと思っています。

娘は3年間、1日も休まずに学校に通い、クラブ活動、ボランティア活動にも積極的に参加していました。高校生活の3年間はとても充実した日々だったと思います。これから勉強、勉強の毎日ですが、自分の目指すものに向かって、いろんな知識を身につけていってほしいと思います。

(諏訪中央病院看護専門学校へ進学)

K様 (H・Kさんの母)

中学校の進路指導で伊那西高校を知り、進学にも就職にも強いという評判を聞きました。また、高遠方面までスクールバス(月々数千円)が来てくれるのも大変ありがたく、娘も全く女子高校に抵抗がなかったので入学を決めました。

実際に入学して、何より良かったのは先生方の熱意です。心から担任の先生を尊敬し、憧れているのが伝わってきました。私が同じことを言っても届かない言葉が、先生から聞くと素直に心に入っていきやすいような所もありました。

娘が入った進学コースからの就職は少ないですが、先生がとても熱心で細やかに何回も相談にのって下さいました。企業体験をするインターンシップも早い時期にあり、気持ちも固まっていきます。面接の練習も丁寧に何回も行ってもらって下さり、面接の練習を通して、娘はより自分の考えがまとまっていったような気がします。

伊那西高校の特色の一つに仏教の授業があります。我が家は無宗教といっても良い程、普段の生活の中に宗教的要素は少ないのですが、グローバル化が進むなか、あまりに仏教について知らなさ過ぎると思うことが増え、日本人として仏教について学ぶ時間があることはとても良いことだったと思います。入学式をはじめ仏教にまつわる行事がいくつかありますが、厳かとても印象深かったです。

クラブ活動は運動クラブが有名で全国でも活躍されていますが、文化クラブも負けず劣らず盛んです。運動が得意でない娘は文化クラブのビジネスキャリアクラブに入り、簿記3級を取らせていただき就職活動にも役立ちました。商業科でなく簿記3級を目指す高校はあまりありません。何事もとても柔軟に対応して下さいます。

勉強、進路だけではなく、行事も本気で行われ、クラス毎に団結し、楽しく燃えて一生懸命参加しておりました。生徒一人一人にスポットライトがあたる出来事を作って下さっていたように思います。

人間として女性として大きく成長させていただいた3年間でした。

(日本発条株式会社へ就職)

U様 (T・Uさんの父)

2020年3月に、3年間お世話になった伊那西高等学校の学び舎を卒業致しました。

娘が中学生の頃は、私立の女子高に通う事になるとは正直思っていませんでしたが、ご縁があり、伊那西高等学校に入学したことは、今思うと必然と言いますか、本当に良かったと思っております。

クラスでも親身になって頂ける先生や、良い友達に恵まれました。クラブ活動も根気強くご指導いただいた先生方、面倒を見ていただいた先輩方、支えてくれた同学年の仲間、後輩の皆さんのお陰で、キャプテンを務めた3年生の時は高校総体で県大会に出場することができました。保護者も抱き合って喜んだあの時のことを、決して忘れることはありません。楽しいことより苦しいことの方が多かったかも知れませんが、3年間で学校やクラブに行きたくないと言うのを一度も聞いた事がなかったのは、関わっていただいた全ての皆さんのお陰です。小さい頃から、自分で決めた事は責任を持って取り組む様にと伝えてきましたが、この3年間で人としてさらに成長できたのも、皆様のお陰であります。また色々な経験もさせていただき、度胸もついたかなと思いますね(笑)。

進路を決める時期には、面接で長所をアピールできるように練習を何度もやっていたが、本当に親身になってご指導いただいたことに感謝申し上げます。お陰様で自分の希望する企業様に入る事が出来ました。しかし、それはゴールではなくスタートです。この4月からは、社会人として頑張っていますが、伊那西高校でご指導頂いた『思いやり』の気持ちを大事にし、自分なりに頑張りたいと思っております。

3年間、本当にお世話になりました。本人、親も良い思い出が沢山でき、伊那西高校にお世話になったのは、やはり『必然』だったと思います。

(伊那食品工業株式会社へ就職)

T様 (M・Tさんの母)

娘は、何でも自分が！という積極的な性格では決してありませんでしたが、1年生ではルーム長、3年生では弓道クラブ長というとても貴重な経験をさせていただくことができました。

中学時代は剣道部に所属しておりましたが、伊那西高校には剣道部がなく「クラブどうしようかな・・・」と悩んでいたところ、担任の先生、弓道クラブ顧問の先生がお誘いくださいました。初めは娘も入学したばかりでやったことのない弓道への不安で迷っていましたが、意を決して入部する事にしました。今思うと、この時こそが娘にとってのターニングポイントになったように思います。

高校生活では楽しいこともたくさんあった半面、自分の立ち位置・立場をわきまえ、友人・後輩への気持ちの伝え方などに悩み、涙したこともありました。しかし、そんなときには、いつも素晴らしい友人、先生方に声を掛けていただき励ましてもらえたこと娘から聞き、私としても安心していました。

この3年間、勉強はもちろんですが、人として、そして、社会に出て生きていくうえで大切なことを、この伊那西高校で学ばせていただけたと思います。この春、大手企業へ就職することができ、新しい環境の中、日々大変ながらも笑顔で頑張っています。今の娘があるのは担任の先生をはじめ友人、顧問の先生、多くの先生方の温かく熱心なご指導のお陰だと心から感謝しております。

(長野オリンパス株式会社へ就職)